



群馬県地域医療再生基金事業の報告

(一社) 群馬県介護支援専門員協会 名誉会員 折茂 賢一郎

平成25年度からの3か年度継続事業として、標記の活動を行いました。詳細は次頁の図表をご覧ください。要は次の3点です。

1. 共通言語をICF Stagingとして、ケアマネジメントの質に資するか
2. 専門職だけでなく、家庭でも利用することができるか
3. 異なる介護支援事業所での利用ができるか

平成27年度末に報告書が出ますので、ここでは簡単に経過を説明しましょう。

当初は、公益社団法人全国老人保健施設協会が開発した老健のケアマネジメントの考え方などを示した“R4システム”を利用したものでした。この“R4システム”の中には、利用者の状態像を客観的に評価できる指標として“ICF Staging”というのがあります。これは世界でも初めて、ICFを利用して、認知症を含む障害を持った人のADLを評価するものです。主観を排除して測定するものであり、統計学的に精査をされた画期的な指標なのです。変化の推移を比較することもできるとともに、基本的には“実行しているADL”を見ていくものなのですが、“実行できるレベルのADL”と比較することにより、ケアやリハビリなどによる到達目標まで判断できる（自立支援）という優れたものです。人の心身機能の評価は大変困難ですが、それをリハビリ専門職でなくても、またたとえ利用者家族という素人さんでも評価が可能のように、イラストを用いているところもユニークな点です。ところが、当初構築したシステムは、やはり施設版としての“R4システム”を利用したものであるので、居宅や老健以外の施設などでは利用がしにくいということが分かりました。そこで、急きょ平成27年度になり、システムを全面的にみなおすことにしました。結果として、次のように改良することにしたのです。

- ・ 利用目的を明確にする
- ・ ADLは“ICF Staging”で評価する
- ・ 居宅系で重要なIADLを盛り込む

これらにより、操作性も簡便になるとともに、施設系でも居宅系でも利用しやすいシステムがほぼ完成しました。これを“RIMシステム”と命名しました。“RIMシステム”の由来は次の通りです。

R : R4 System, Reporting, Rehabilitation, Relationship

I : Information, ICF Staging, IADL

M : Monitoring, Management, Multiple

これらの頭文字からつけたもので、その趣旨はここに内包されております。最終アンケートでも、この有効性と地域連携での可能性が示唆されていますが、今後はさらに使いやすいものに改良していくことも指摘されております。今後の発展を乞うご期待です。

社会福祉法人群馬県共同募金会

赤い羽根共同募金



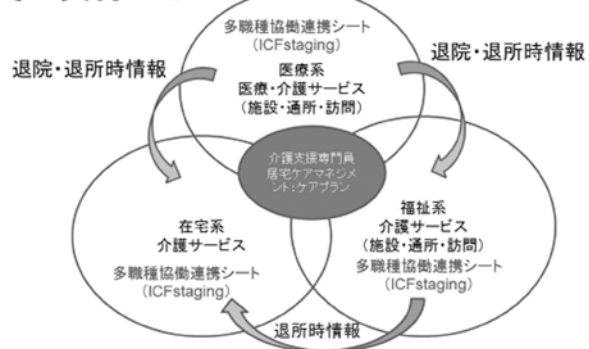
会報「ケアマネ群馬」は赤い羽根共同募金の助成を受けて発行されています。

R R4system, Rporting, Rehabilitation, Relationship
I Information, ICF Staging, IADL
M Monitoring, Management, Multiple
システム

**ICF Staging を活用して多職種協働による
 自立支援型居宅ケアマネジメントを実現する**

群馬県地域医療再生基金事業として、(一社)群馬県介護支援専門員協会と(公社)西吾妻福祉病院が取り組んでいます

その実現のために



ICF stagingを評価指標とした「自立支援型」居宅ケアプラン立案モニタリングの際にICF stagingの変化を把握しプランの見直し

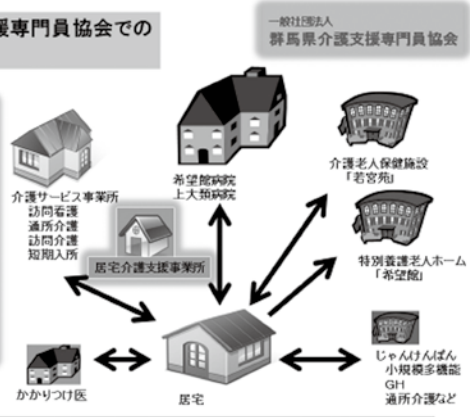
**群馬県介護支援専門員協会での
 概念図**

ICF Staging

全ての事業所で共通言語として利用者の想い・願い 人生(生き甲斐)を実現できるように

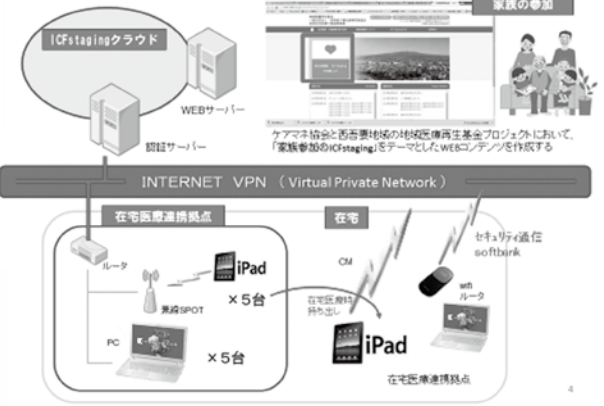
支援する仕組みづくり

この構築を目指す

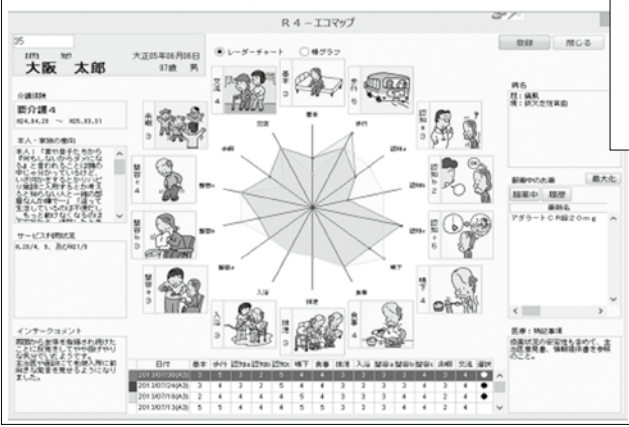


住民が、疾病によりかかりつけ医や病院へ、介護により介護事業所や介護施設等のどこに移動しようとも、その時々々の状態像が的確に把握できる仕組みづくり

エポックメイキングな“家族の参加”も視野に・・・



こんな画面で情報を共有して・・・セキュリティも万全



群馬ケアマネジメントフォーラム XIII in 西毛

大会はいよいよ2ヶ月後！

大会長 相原 優子
(医療法人育成会 篠塚病院)

皆さん、こんにちは。群馬ケアマネジメントフォーラム2016の大会長を仰せつかった篠塚病院の相原優子です。いよいよ大会が2ヶ月後に迫りました。準備は実行委員長はじめスタッフの努力で着々と進んでいます。

石飛幸三先生による特別公開講演の演題も、「**穏やかな最期を迎えるために**」と決定いたしました。バリバリの血管外科医であった石飛先生が、外科医としての最前線をリタイアされた後にどんな体験をされて、どのようにお考えが変わって来られたのか？誰にでもいつか訪れる“死”というものの自分なりの捉え方を、我々自身の中で改めて確認する良い機会になると思います。そうしてこそ初めて、“死”に直面した人とそのご家族に、人として向かい合うことが可能となるのではないのでしょうか？

引き続いての公開シンポジウムでは、老衰を迎えたご自身の親と義理の親を、実際にご自宅で看取られた女性に登壇していただく予定です。永く歩んだ人生の最終章を、人として自然の姿である老衰を、主人公とその周りの人々はどんな風に自宅で迎えたのでしょうか？その時に、我々の仲間であるケアマネジャーはどのように関わっていたのでしょうか？「こんなことを心配しなかったのか？」「そんな時どうしたのか？」など聞きたいことだらけになりそうです。

午後のワールドカフェでは、午前の特別講演とシンポジウムを踏まえて、「今われわれにできること」を討論していく予定です。まずは、“いつか死すべき定めの人”として、その上でケアマネジャーという職業人として、我々にできることを確認しあおうではありませんか。自分磨きを考えておられる方、一人でも多くの方のご参加をお待ちしています！

群馬ケアマネジメントフォーラムXIII in 西毛

テーマ：『いかに生き、いかに逝くか』

～ “生ききる”を支えるために私たちにできること～

開催日：平成28年7月10日（日）

場 所：サンピア高崎

「理事会・各委員会の活動報告」

理事会

会長 大澤 誠

平成28年度に支給される助成金の報告があった。一つは赤い羽根共同募金からの750,000円（群馬フォーラム分550,000円、会報発行分200,000円）。もう一つは県社協からの95,000円（ケアマネジメントの周知と啓発事業分）である。いずれも貴重な助成であり大切に使用したい。一方、会費収入は毎年伸び悩んでおり、会員の皆様の周りのケアマネジャーへの入会勧誘をぜひともお願いしたい。

学術研修委員会

学術研修委員長 菅野 圭一

2月6日の特別講演会皆様には大変お世話になりました。当日参加された方はおわかりでしょうが、大変示唆に富む有意義なお話をお聞きすることができました（概略をお知りになりたい方は、会報96号の松沢副会長のまとめを御覧ください）。今年度もぜひ同様に楽しくてためになる会を企画していきます。

広報情報委員会

広報情報委員長 松本 勝美

ケアマネ群馬96号を発行いたしました。広報情報委員「TOWN介護」担当の会議を3月30日に開催し今後の活動について協議いたしました。今年度は「ケアマネ群馬」「TOWN介護」の二本立てで群馬県介護支援専門員協会の活動と支部情報および協会員の活躍状況を広くアピールしていきます。

総務財政委員会

総務財政委員長 高橋 正彦

今、事業年度も残すところ、わずかです。ケアマネ群馬が会員の皆様に届くころには、桜も満開かと思えます。年度末のあわただしい折、各支部においては新年度の事業計画等の準備で大変かと思いますが、協会の総会は5月28日を予定しています。事務局では、支部交付金の確定作業等がありますので、支部総会はなるべく協会の総会1週間ぐらい前までに行って下さい。よろしくお願い致します。

渋川支部

2月28日（日）18時30分から、渋川圏域支部総会・定例会を行った。

平成28年度事業計画・予算案について全員賛成で承認された。その後の定例会では、緩和ケアの介護支援専門員研修受講報告・医療ソーシャルワーカーとの意見交換会報告の2報告が行われた。緩和ケアの介護支援専門員研修では、訪問看護ステーション HagHeart つくいの看護師との同行訪問の様子、小笠原医師の講義、状態が常に変化のある方へのプランの立て方について受講者からの報告を受けた。医療ソーシャルワーカーとの意見交換会報告では、グループワークで顔を見ながら普段言えないことも言えてよかった。お互い同じ目的で動いているのであるからそうすれば同じことを共有できるか考えることが大事など、MSWからの意見を確認することができた。渋川医療センターの説明もあり、有意義な定例会だった。

（渋川市在宅介護支援センターしづかわ 高橋 敬子）



吾妻支部

3月27日（日）に吾妻支部恒例の宿泊研修を伊香保温泉で行いました。当日は少数精鋭の参加になりましたが大いに盛り上がった研修会でした。

講師は群馬県介護支援専門員協会 会長の大澤誠先生にお願いし、研修は「認知症を持つ人のケアマネジメントと家族支援の実際」～多職種協働の中でケアマネジャーが実践すべき本人・家族支援～ のテーマで講演していただきました。

認知症の理解、症例検討などを行い大変勉強になりました。質問もたくさんできて良かったと思います。

講演終了後は、温泉につかり夜の懇親会に突入しました。大澤先生も泊まっていただき楽しく交流ができました。今後も宿泊研修は続けていきたいと思います。

（特別養護老人ホームいわびつ荘 田村 広行）

伊勢崎支部

3月17日（木）18時30分～20時、伊勢崎市市民プラザ3階にて東京福祉大学心理学部准教授大澤靖彦先生による「ストレスマネジメント」の研修会が開催されました。今回のテーマは介護支援専門員の「心」の健康。様々な質問に答えながら、現在の自分の心理状態を確認し、バーンアウトについての理解、ストレス解消の具体的な方法など、実践を交えて学びました。参加者は35名、先生の優しく癒される口調での講義と参加者同士で互いにケアする実践のおかげでしょうか、研修終了時にはみなさん優しい笑顔がこぼれていました。

（居宅介護支援温守 前田 正博）

太田支部

3月18日（金）19時から太田市鳥之郷行政センターで第3回太田支部研修会が開催されました。新田地域包括支援センター木村 豊管理者による、太田市から委託を受けてから1年経過した「新包括支援センター スタートして見えてきたもの」と題してご講演をいただきました。

今後、課題とされる地域包括ケアシステムの構築について

では、地域によって多職種に温度差があるので、9圏域の地域包括支援センターが要となって職種間の連携をとることが重要であることや、介護・医療・予防・住いの生活支援が一体的に提供



できる体制を目指すには各事業所のケアマネジャーの協力が不可欠であることの理解ができました。そして、これからの地域づくりには地域住民が参加しやすい環境作りが大切であることを感じました。

貴重なお話を頂きありがとうございました。

（居宅介護支援事業所ぐるっぺ 平田 京子）



富岡甘楽支部

3月10日（木）に行われた今年度第4回目の支部研修会では、富岡保健福祉事務所企画福祉課 飯田監査指導係長をお招きし、「居宅介護支援事業所の実地指導について」と題してご講演いただきました。

内容は、あらかじめ会員より寄せられた質問に対する回答や過去（前回）の実績を踏まえた注意点が中心となりました。

今回の研修会には今まで以上に多くの会員が参加し、来年度実施される予定となっている実地指導に向けて真剣な様子で話を聞き入っており、内容に対する関心の高さが伺えました。



実地指導を受けるということはとても緊張しますが、日頃の業務を定期的に見直す良い機会になります。今後も法令や基準に沿って適切なケアマネジメント業務を行っていきたいと思います。

（富岡市社会福祉協議会 飯塚 木綿子）

多野藤岡支部

2月29日(月) 19:00～藤岡商工会議所で第5回藤岡多野医師会との交流会が59名の参加を得て開催されました。医師会からは19名、介護支援専門員37名、更に今回は歯科医師3名のご参加を頂きました。



交流会に先立って行われた研修会は、群馬県健康福祉部地域包括ケア推進室係長 神山智子様による「医療介護連携調整実証事業(退院調整ルール策定)について」。要介護状態の患者さんへの退院支援ルールがないことから患者さん・病院・介護支援専門員それぞれが困難を抱える状況に陥ってしまう。これを改善するため地域全体の病院・介護支援専門員が協議を重ね退院ルールを策定、運用することで円滑な支援を展開し患者さんを支えていこうというもの。このお話しの中で驚いたのは、介護支援専門員から病院への情報提供がわずか2割！事業開始8ヶ月後でも3割に満たないという低さで、私たち介護支援専門員の側の課題を突きつけられました。

交流会では、普段お話しする機会の少ない先生方と掘り下げたお話しができ、示唆に富む助言を頂くなど非常に有意義な時間を過ごしました。

尚、この場をお借りして、篠塚病院神経内科医・相原優子ケアマネジメント群馬フォーラムXⅢ大会長から、同大会のご紹介もさせて頂きました。

(特別養護老人ホームふじの里 小出 良一)

群馬ケアマネジメント研究会ユースセッション

3月12日(土)、群馬県社会福祉総合センターにて、当協会の大澤誠会長、高崎健康福祉大学の金井敏先生をお呼びしてお二人の先生の講義、後半は現任ケアマネジャーを含めたパネルディスカッションを行いました。この研修会の講義では「ケアマネジャーはニーズをキャッチできているか？」という問いかけや、「意志決定支援」についてなど、改めて考え直す機会となりました。また、パネルディスカッションでは、各ケアマネジャーの取り組みや課題、職能団体の重要性など参加者の間で共有することができました。平成28年度もこうした研修会などを企画して行く予定ですので、是非ご参加下さい。

(じゃけんぽん地域生活支援室 須田 和也)

事務局からのお願い

会費納入について

平成28年度会費のお振込がお済みでない方は、お手数ですが下記口座にお振り込みをお願いいたします。本会は会員の皆様の会費で運営しております。

より良い会を目指して役員・支部長・委員等頑張っております。是非ご協力の程をよろしくお願いいたします。

会費振込先

取扱銀行 ゆうちょ銀行

口座番号 00540-0-63399

口座名 一般社団法人群馬県介護支援専門員協会

*** 他金融機関からの振込用口座番号 ***

〇五九(せごきゅ)店(059) 当座 0063399

金額

- 1 一般社団法人群馬県介護支援専門員協会会費 4,000円
- 2 日本介護支援専門員協会&群馬県介護支援専門員協会会費 9,000円
- 3 賛助会員 1口5,000円を2口以上でお願いいたします。

*いずれも継続会員様の年会費金額です。

新規入会をご希望の方は本会事務局にお問い合わせください。

会員登録に変更のある皆様へ

住所変更・勤務先変更等のある方また退会希望の方につきましては、本会ホームページより《事務局から→変更届(こちらから)・退会届(こちらから)》から用紙を印刷してFAXまたは郵送をお願いいたします。

一社)群馬県介護支援専門員協会事務局(群馬県社会福祉協議会 地域福祉課内)

TEL 027-255-6226

FAX 027-255-6173 (注) FAX番号が変更になりました。

事務担当 新井

編集 後記

平成28年度がスタートしました。介護保険制度が始まって16年が経ち、ケアマネ群馬も記念すべき100号まで残り3号となりました。継続するって大切ですねえ。今後ともケアマネ群馬をよろしくお願いいたします。(の)